老年医学教科書に対する医学生意識に関する調査

内藤 通孝 野村 秀樹 井口 昭久

〈要 約〉 学生向け老年医学教科書の問題点を明らかにするために、医学教科書に対する医学生意識を調査した。老年医学を含む臨床系統講義の受講を終了し、老年科臨床実習に参加した医学部5年生（1998年度98名、1999年度95名）に対し、老年医学の教科書に対する意識についての調査を無記名アンケート方式で行った。内科学の教科書をもっている者は両年度とも100%、診断学の教科書をもっている者は98年度51.0%、99年度42.1%であったのに対し、老年医学の教科書をもっている者は98年度5.1%、99年度2.1%であった。老年医学の教科書をもっていない理由は、「どの教科書がよいかわからないから」が98年度61.2%、99年度56.8%；「必要がないから」が98年度13.3%、99年度18.2%；「適当な教科書がないから」が98年度4.1%、99年度4.2%；「その他」の理由が98年度16.3%、99年度18.9%であった。教科書を選ぶ基準で最も重視するのは、「自分で実際に見て決める」が98年度39.8%、99年度55.8%；「先輩・友人からの情報」が98年度41.8%、99年度35.8%；「教官の推薦」が98年度14.3%、99年度5.3%であった。老年医学の教科書は内科学や診断学の教科書に比べると、自分で所持している医学生の割合は極めて低かった。しかし、所持していない理由は必要がないからではなく、どの教科書がよいかわからないからという者が最も多かった。また、教科書を選ぶ基準としては、教官の推薦よりも自分自身の判断や先輩、友人からの情報を重視する姿勢が伺われた。これらの結果から、学生向けに期待される老年医学教科書の条件として、1) 内科学との相違を強調した老年医学および老年学の独自性、2) 難し過ぎない学生向きの内容、3) 持ち運びしやすい大きさと重さ、4) 手頃な値段、などが考えられた。また、老年医学の独自性を強調した講義を行うことが重要と考えられた。

Key words：医学教育、老年医学、教科書、医学生、アンケート調査

（日老医誌 2000；37：734—738）

はじめに

近年、医学教育における老年医学あるいは、さらに広い視野に立った老年学の重要性が指摘されている。しかし、わが国の現状においては学生向けに作られた老年医学教科書は種類が少なく、内科学、外科学、小児科学などの主要な臨床科目の教科書に比べると、学生に十分に受け入れられていない可能性がある。老年医学教育の在り方については最近ようやくそれに関する論文が散見されるようになり、教育する立場からの調査研究^{1)~3)}ばかりでなく、医学生の意識調査の結果も見られるようになった^{4)~6)}。しかし、とくに老年医学の学生向け教科書について検討を加えた報告は皆無である。

本研究では、医学教科書に対する医学生意識を調査することにより、学生向け老年医学教科書の問題点を明らかにし、よりよい老年医学教育を実現する上での今後

の老年医学教科書の在り方を考察した。

対象と方法

名古屋大学医学部医学科において老年科学（当大学では老年医学を含む広義の老年学を老年科学と呼称している）を含む臨床系統講義の受講を終了し、老年科臨床実習（ポリクリⅠ）に参加した医学部5年生（1998年度、男性78名、女性20名；1999年度、男性72名、女性23名）に対し、老年医学の教科書に対する意識についての調査を行った。方法は無記名アンケート方式で行い、回答は「はい/いいえ」と選択肢形式とし、記述欄も設けた。

なお、老年科学の講義は4年生時に連続的に15単位（1単位90分）行われ、進級には60%以上の出席を必要とする。教科書は講義の前に推薦図書としてあげるが、当大学は国立であり、強制的に特定の教科書を学生に買わせることはしていない。老年科ポリクリⅠは必修で、1週間（5日）の臨床実習を行っている。調査対象学生は長期欠席者や交流のための海外留学中の者を除くほぼ全員であり、両年度ともに回収率は100%であった。

質問項目は、

M. Naito, H. Nomura, A. Iguchi：名古屋大学大学院医学研究科健康社会医学専攻 発育・加齢医学講座（老年科学）

受付日：2000. 4. 24, 採用日：2000. 6. 20

図1 医学生が所持している内科学教科書の数と主要教科書

- 1) あなたは内科学の教科書をもっていますか？
はい (種類数) いいえ
「はい」と答えた方はどの教科書ですか？
(書名, 出版社)
- 2) あなたは診断学の教科書をもっていますか？
はい (種類数) いいえ
「はい」と答えた方はどの教科書ですか？
(書名, 出版社)
- 3) あなたは老年医学の教科書をもっていますか？
はい (種類数) いいえ
「はい」と答えた方はどの教科書ですか？
(書名, 出版社)
- 4) 3)で「いいえ」と答えた方はなぜですか (1つだけ選択)？
a) 必要がないから
b) 適当な教科書がないから
c) どの教科書がよいかわからないから
d) その他 (自由記述欄)
- 5) あなたが教科書を選ぶ基準は次のうちどれですか (1つだけ選択)？
a) 教官の推薦

- b) 先輩・友人からの情報
- c) 自分で実際に見て決める
- d) その他 (自由記述欄)

結 果

内科学の教科書をもっている者は、1998年度、1999年度ともに100%であった(図1)。しかも、1998年度で78.6%、1999年度で88.4%の学生が2種類以上の内科学教科書をもっていた。その内訳をみると、教科書Aは1998年度82.7%、1999年度には94.7%の学生が保持していた。教科書Bは1998年度には75.5%の学生が保有していたが、1999年度では34.7%であった(改訂の時期に一致していた)。一方、教科書Cは1998年度は18.4%の保有率であったが、1999年度は67.4%と増加した。

診断学の教科書をもっている者は、1998年度51.0%、1999年度42.1%、平均46.6%であった(図2)。複数の診断学教科書をもっているものは、1998年度12.2%、1999年度は8.4%であった。内訳では、教科書Aが1998年度21.4%、1999年度には12.6%、教科書Bが1998年度7.1%、1999年度8.4%であった。

老年医学の教科書をもっている者は、1998年度は98名

図2 医学生が所持している診断学教科書の数と主要教科書

中5名(5.1%), 1999年度は95名中2名(2.1%), 平均3.6%であった(図3)。1998年度は教科書A3名, B2名, 1999年度は教科書C1名, D1名であった。2種類以上の老年医学教科書を持っている者はなかった。

老年医学の教科書をもっていない理由は、「どの教科書がよいかわからないから」が、1998年度61.2%, 1999年度56.8%, 平均59.1%で、両年度とも最も多く、続いて「必要がないから」(1998年度13.3%, 1999年度18.2%, 平均15.5%), 「適当な教科書がないから」(1998年度4.1%, 1999年度4.2%, 平均4.1%)であった。「その他」は1998年度16.3%, 1999年度18.9%, 平均17.6%であった(図4)。「その他」の自由記述で、金銭面の理由を上げた者が両年度ともに各7名あった。また、内科学の教科書で代用できると答えた者が1998年度に4名, 1999年度に1名あった。

教科書を選ぶ基準で学生が最も重視するのは、「自分で見つかる」とする者が1998年度39.8%, 1999年度55.8% (平均47.7%), 「先輩、友人からの情報」を最も重視すると答えたものが、1998年度41.8%, 1999年度35.8% (平均38.9%), 「教官の推薦」を最も重視する者が1998年度14.3%, 1999年度5.3% (平均9.8%)であった。「そ

その他」は1998年度4.1%, 1999年度3.2% (平均3.6%)であった(図5)。自由記述では、「値段」、「持ち運びできる大きさ、重さ」、「難しすぎないこと」を上げた者が各1名あった。

考 察

近年、全国の医学部や医科大学に名称は若干異なるものの老年科学講座あるいは類似の高齢者医療に関わる講座ないしは診療科が設けられてきた。医学教育においても老年医学あるいは、さらに広い視野に立った老年学教育の重要性が指摘されてきたが、わが国の現状では学生向けに作られた老年医学教科書は種類が少なく、他の主要な臨床科目の教科書に比べると、学生に十分に受け入れられていない可能性がある」と推定されたため、本調査研究を企画した。本研究は、医学教科書に対する医学生の意識を調査することにより、学生向け老年医学教科書の問題点を明らかにし、よりよい老年医学教育の実現を目指すものである。

内科学の教科書は学生全員が有しており、しかも、1998年度で78.6%, 1998年度には88.4%と大部分の学生が2種類以上の内科学教科書をもっていた。持っている教科

図3 医学生が所持している老年医学教科書の数と種類

図4 学生が老年医学教科書を持っていない理由

図5 学生が教科書を選ぶ基準

書の内訳は、3種類の教科書が大部分を占めており、定評を得た標準的な教科書が存在していることが示唆される。一方、診断学の教科書は1998年度51.0%、1999年度42.1%と半数程度の学生がもっていたが、内訳では特定の教科書に集中しておらず、内科学のような標準的な教科書は存在しないと考えられた。

一方、老年医学の教科書は1998年度5.1%、1999年度2.1%と、内科学や診断学の教科書に比べて自分で教科書を所持している学生の割合は極めて低かった。1998年度は教科書A3名、B2名、1999年度は教科書C1名、D1名であった。このうち、A、B、C3種類の教科書は老

年科学講義の前に推薦図書としてあげたものであるが、当大学は国立であり、強制的に特定の教科書を学生に買わせることはしていない。

老年医学の教科書をもっていない理由は、「どの教科書がよいかわからないから」が平均59.1%と両年度とも最も多く、続いて「必要がないから」(平均15.5%),「適当な教科書がないから」(平均4.1%)であった。「どの教科書がよいかわからないから」が多かったことは、学生が教科書を選ぶ基準を明確に教官が助言できることが重要と考えられた。自由記述欄で注目されるのは、「お金がないから」と金銭面の理由を上げた者が両年度合わせて14名あったことである。少なくとも一部の学生においては教科書に対する出費が経済的な負担となっている可能性があると考えられた。また、「内科学の教科書で代用できる」と答えた者が両年度合わせて5名あったことは、老年医学の独自性に対する学生の認識不足が示唆され、講義において老年医学の重要性、独自性を如何に強調していくか、および老年医学の教科書の内容の改善が今後の課題と考えられる。とくに、他の内科学の講義終了後に老年医学の講義が実施されるよう学生が希望しているとの調査結果⁴⁾のように、内科学の基礎知識を踏まえた上での老年医学教科書の在り方が期待される。

教科書を選ぶ基準で学生が最も重視するのは、「自分で実際に見て決める」とする者が平均47.7%,「先輩、友人からの情報」を最も重視すると答えたものが、平均38.9%,「教官の推薦」を最も重視する者が平均9.8%であった。当大学の学生においては、教官の推薦よりも自分自身の判断や先輩、友人からの情報を重視する姿勢が伺われた。「その他」は平均3.6%であったが、自由記述欄では、「値段」、「持ち運びできる大きさ、重さ」、「難しすぎないこと」をあげた者があった。

これらの結果から、学生向けに期待される老年医学教

科書の条件は、1) 内科学との相違を強調した老年医学および老年学独自の内容、2) 難し過ぎない学生向きの内容、3) 持ち運びしやすい大きさと重さ、4) 手頃な値段、などがあげられよう。

本調査は今後も毎年継続し、学生向け老年医学教科書の動向を研究していく予定である。しかし、本調査は国立の1大学のみにおける調査であり、日本全国の医学生の意識を代表していない可能性がある。今後、より広い視野からの調査研究が望まれる。

本論文の要旨の一部は第41回日本老年医学会学術集会(1999年6月18日、京都)で報告した。

文 献

- 1) 小澤利男, 入来正躬, 深沢俊男, 林 潤一, 蟹沢成好, 松瀬 健ほか: 大学における老年医学教育に関する研究—大学における老年医学教育の現状と将来展望—. 日老医誌 1996; 33: 378—383.
- 2) 林 潤一, 入来正躬, 秦 茂哉, 小澤利男, 深沢俊男, 蟹沢成好ほか: 大学における老年医学教育に関する研究—老年学・老年医学講座の担当教官の老年学・老年医学教育についての意識調査—. 日老医誌 1996; 33: 384—392.
- 3) 蟹沢成好, 入来正躬, 小沢利男, 深沢俊男, 林 潤一, 松瀬 健ほか: 大学における老年医学教育に関する研究—病理学教育における老化・老年医学教育の現状と将来展望—. 日老医誌 1996; 33: 686—691.
- 4) 袴田康弘, 若月芳雄, 小沢利男, 林 潤一, 蟹沢成好, 松瀬 健ほか: 大学における老年医学教育に関する研究. 医学部学生の老年学・老年医学についての意識調査に関する研究(第1報). 日老医誌 1996; 33: 444—451.
- 5) 袴田康弘, 若月芳雄, 北 徹, 小沢利男, 深沢俊男, 林 潤一ほか: 大学における老年医学教育に関する研究. 医学部学生の老年学・老年医学教育についての意識調査に関する研究(第2報). 日老医誌 1996; 33: 452—459.
- 6) Naito M: Are the new medical students interested in the introduction of public long-term insurance in Japan? Age Ageing 1999; 28: 84.

Abstract

Why do Medical Students Not Have a Geriatrics Textbook?

Michitaka Naito, Hideki Nomura and Akihisa Iguchi

To study the opinions of medical students on textbooks of geriatrics, we made a questionnaire for 5th-year medical students. All students had their own textbook (s) of internal medicine, and nearly half of the students had textbook (s) of physical examination. However, only 3.6% of students had their own textbook of geriatrics. The reasons for not having a textbook of geriatrics were as follows: 1) no understanding which textbook is better (59.1%), 2) no need to have a textbook (15.5%), 3) no appropriate textbooks (4.1%), and 4) others (17.6%). The most important point for choosing a textbook was as follows: 1) information from friends or seniors (38.9%), 2) looking by oneself (47.7%), 3) recommendation of a teacher (9.8%), and 4) others (3.6%).

Key words: Medical student, Education, Textbook, Geriatrics, Questionnaire
(Jpn J Geriatr 2000; 37: 734—738)